

植物多様性センターの「本当は6つ子のトチの実」

今年も情報館前にトチノキがたくさん実を落としました。中にはクリそっくりの大きな丸い種子が入っていますが、クリと違うのは、ふつうは1個しか入っていないことです。じつはトチノキの花はもともと子房が3室で、種子のもとになる胚珠がそれぞれ2個ずつ合計6個あるのです。できるだけ親から遠くに種子を散布できるよう、残りの5個が早々に退化し、大きく重く丸い種子を1個だけつけることで生き残ってきたのでしょうね。



夏から秋に大きな褐色の果実が熟す。果皮は3つに割れる



頭がとがったクリ(左)丸くて平たいトチの実(右)



種子が果軸に対して直角に位置し、通常は1個(まれに2、3個)



中央に黒く見えるのは退化した5個の胚珠のうちの一つ